

## 平湯周辺 大崩山北面ルート、安房山

—中村

【日時】2010年1月9日(土)～11日(月)

【メンバー】中村(L)、木下、田辺(利)

地図を見ていて面白いルートと思い、総会の頃から声をかけ始め、実現した山行。降り続いた雪が止み、3連休中は穏やかな日続きそうだ。

大崩山北面ルートは平湯温泉から登るため、標高差で1200mある。ラッセルとなれば相当な時間が掛かるであろう。そこで、前夜移動の疲れの影響を受ける1日目は軽い山に行き、2日目に早朝出発して大崩山山頂を狙う計画とした。

【1日目】1月9日(土)：中ノ湯温泉～安房山 [曇/晴]

初日は、松本労山のTさんPと同行することになっていた。朝、沢渡で集合し、いざ中ノ湯へ。あちらは5人で合計8人の一行となり、ラッセルも協力しながら進む。労山Pにハイシールの人がいて、ルートも的確に教えてくれた。適当にショートカットしながら林道を行き、1629から尾根に取り付くのが正解のようだ。



1900 鞍部からの沢ルート

お手軽な山のつもりで入ったが、意外と急な尾根が続く。労山Pには新人が二人いて、苦勞しているようだ。

稜線上は比較的なだらか。晴れているので、霞沢岳、上高地や穂高方面が一望できる。

稜線歩き1時間強で平らな山頂に到着。立派な電波塔が建っていた。安房トンネル同様、信州と飛騨を電波で結ぶ重要な施設なのである。

計画ではここから小船へ下りる予定であるが、しばらく待っても労山Pが来ないので、登った稜線を滑り降りることにした。雪テストの結果、弱層アリなので、十分に注意してドロップイン。意外と安定している。斜面を拾いながら稜線上を下りる。

稜線を下り切り、1900鞍部からは登ってきた尾根を下りてもよいが、となりの沢型に入った方が雪はよさそうだ。これまで滑った感じから、雪が比較的安定しているようなので、こちらを滑ることにする。この斜面、標高差で300mほどであるが、雪質良く木も疎らで快適に滑れる(写真)。天気が悪いときにはこっだけ滑りに来ても十分な価値があるだろう。

車を止めさせてもらったお礼の意味もこめて、中ノ湯に入浴する。平湯温泉同様、良い湯だった。

【2日目】1月10(日)：平湯温泉～大崩山 [曇／雪]

今日は本命の大崩山北面である。本当はもう少し早く出発したかったが、結局7時過ぎの出発となった。トレースを進むと、単独の人がラッセルしている。大阪から来た人で、四ッ岳を目指すそうだ。お礼を言ってラッセルを交代する。1時間くらいで、2つの段差を登り1600mの台地に。ここで、おなじみの四ッ岳ルートとはお別れ。いよいよ北面ルートの始まりだ。1906から派生する尾根を登ると藪がうるさそうなので、尾根手前の薄い沢型を行くことにする。ここはブナが生えており木も疎らで、滑りも十分楽しめそうだ(写真)。



1906に登る沢型のブナ林

1750m付近で自然に尾根に乗る。この先1906まで狭いながらも尾根上を滑れそうだ。1906からは斜度も無くなり、藪も所々濃くなる。濃い藪のため、どうしても尾根上を通れない場所があるが、右の斜面を少しトラバースし、直上すれば、簡単に尾根に戻る。さらに尾根を少し行くと、2050mの台地に出る。ここで小休止。



山頂直下のブナの大斜面

ここから、台地を南下し、再び小さな尾根に乗る。この尾根は雪が多くスキーを履いていてもモモまでのラッセルとなるが、がんばって山頂を目指す。隣の小尾根と合流する2300mくらいから上部は広いブナ斜面が広がる(写真)。

朝それなりに早く出発したが、時刻は1時を回ってしまった。このラッセルでは仕方が無い。山頂まであと100mくらいであるが、まだ1時間くらいはかかりそうだ。雪が降ってきて、風も出てきた。ブナの大斜面が終わる2400m付近で今日は打ち切りとし、山頂は明日再挑戦することにする。

滑りは昨日と同様のパウダー。モモラッセルの甲斐あり、巻き上げた雪が口の中に入ってくるほど(写真)。あっという間に滑り下り、2050mの台地の端に到達。ここからはほとんど平らなので、一旦シールを付ける。台地の端でシールを取り、再び滑走。しばらくは

狭い尾根を行くので、登りで巻いたところ意外は、移動するのみ。とはいえ1900mからは再び滑れる斜面が出てきて、後半戦の始まりとなる。1600mの台地まで続く沢型斜面も雪が良く斜度も適度でなかなか楽しい。台地で四ッ岳ルートと合流。あとはいつも通り2つの段差を滑り降り、平湯キャンプ場へ。最後の斜面までパウダーだった。



木下さん

【3日目】1月11日(月)：平湯温泉～大崩山 [晴/曇]

「今日こそは山頂へ」と意気込んで起きたものの、結局昨日と同じ時間の出発。でもトレースがあるかあら楽勝でしょう。今日は3連休の中でもっとも良い天気で、朝から青空だ。昨日のトレースをひたすら辿る。

12時前に昨日の到達点2400m



田辺さん



山頂にて（四ッ岳をバック）

に到着。1時間半以上早い到着だ。3/4の時間で登ったことになる。ここから真っ直ぐ登るにはちょっと斜度がきついので、斜面をトラバースして、尾根に乗ることにした。この尾根も斜度は若干緩くなるが、木も疎らで快適だ（3年前滑走済）。斜度が緩くなると山頂は目の前となるが、3日間の疲れか、標高が2500mを越えたせいか、3人ともスローペースに。12

時20分山頂到着。このルートは随所で平湯集落が一望できるが、山頂からの眺めは最高である。この標高差をこれから滑れると思うとワクワクしてくる。

四ッ岳をバックに記念写真を取り、いざ滑走へ。昨日同様パウダーだ。特に山頂直下の2300mまでのブナ斜面は斜度も結構あって、ロングターンが決まって面白い。



昨日と違い視界も良いので快適だ。結局このルート、2日間とも誰とも会わず、昨日は1100m、今日は1200mのパウダーを3人占めて、大満足の大崩山でした。

【地形図】 焼岳、乗鞍岳

【行程】

1日目：中ノ湯(8:12)～安房山(12:22/12:55)～中ノ湯(2:18)

2日目：平湯キャンプ場(7:19)～大崩山山頂直下2400m地点(1:34/1:54)～平湯キャンプ場(3:32)

3日目：平湯キャンプ場(7:14)～大崩山山頂直下2400m地点(11:48)～大崩山山頂(12:20/12:30)～平湯キャンプ場(2:20)

